

令和6（2024）年度

第3学年

学習の内容と評価



東京学芸大学附属国際中等教育学校

6 年を通じた教科目標/養いたい力	
国際社会でよりよく生きるために、物事に対する洞察力、自己と他者とを深く理解するためのコミュニケーション能力、確かで豊かな表現力を養うとともに、日本語に対する興味・関心を高める。	
3 学年【国語】の目標/伸ばしたい力	
<p>○文章を読むだけでなく、人の話や、さまざまなメディアからの情報を含めて「読み取る力」。</p> <p>○自分の考えや心情、あるいは調査結果・報告・説明などを相手にわかりやすく伝えるための「書く力」。</p> <p>○自分の考えを深めたり、他の人によりよいコミュニケーションを図ったりするために、人の話やメディアからの情報を正確に「聞き取る力」や「情報を整理する力」。</p> <p>○聞き手の身になってよりわかりやすく伝えるための「話す力」。</p> <p>○言語についての知識やそれを活用する技能。</p>	
<p>規準 A 分析 (Analysing)</p> <ul style="list-style-type: none"> i. テキストの内容、文脈、言語、構造、技法、およびスタイル (文体) と、複数のテキスト間の関係を特定し説明する。 ii. 作者の選択が、受け手に与える効果を特定し説明する。 iii. 例、説明、用語を用いて、意見や考えを正当化する。 iv. ジャンルやテキストにおいて、または複数のジャンルやテキストにわたって、特徴の類似点と相違点を解釈する。 	
<p>規準 B 構成 (Organizing)</p> <ul style="list-style-type: none"> i. 文脈と意図に応じた組織的構造を使用する。 ii. 意見や考えを、持続的で一貫性のある、論理的な方法で整理する。 iii. 執筆のフォーマットを利用して、文脈と意図に適した体裁を作成する。 	
<p>規準 C 創作 (Producing text)</p> <ul style="list-style-type: none"> i. 創造的プロセスへの個人的な関わりから生じる新しいものの見方や考え方を探究し検討しながら、思想、想像力、感受性を示すテキストを創作する。 ii. 言語的、文学的、視覚的な表現の観点から、受け手に与える影響を認識したスタイル (文体) を選択する。 iii. アイデアを発展させるために、関連する詳細情報と実例を選び出す。 	
<p>規準 D 言語の使用 (言語の使用 Using language)</p> <ul style="list-style-type: none"> i. 適切で多様な語彙、構文、表現形式を使用する。 ii. 適切な言語使用域 (レジスター) とスタイル (文体) で書き、話す。 iii. 正しい文法、統語法、句読法を用いる。 iv. 正確に綴り (アルファベット言語)、書き (文字言語)、発音する。 v. 適切な非言語的コミュニケーション技法を利用する。 	
MYP 評価規準	評価方法
規準 A : 分析 (Analysing)	定期テスト・ノート・ワークシート・レポート・発表
規準 B : 構成 (Organizing)	定期テスト・ノート・ワークシート・レポート・発表
規準 C : 創作 (Producing text)	作品・発表
規準 D : 言語の使用 (Using language)	定期テスト・小テスト・レポート・発表・暗唱
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	
使用教材	
教科書：現代の国語（三省堂）	
学習内容	
主に教科書『現代の国語 3』（三省堂）を使用します。単元によっては別にプリントや教材を配ります。次のような学習を行う予定です。	
<p>1 : 〈随想〉・言葉の持つ意味とあり方について再認識し、言葉について継続的に考えを深めていく。</p> <p>・よりよいコミュニケーションは何に支えられているかということを考える。</p>	
<p>2 : 〈評論〉・日常生活で身近なものや今を生きる人間の置かれた状況との関わりを正しく把握する。</p>	

・展開に注意しながら、筆者の考えを正しく理解し、自分の意見を持つ。

3 : 〈小説〉 ・表現にそって登場人物の心の動きをたどり、作品全体の構造や作者の意図を把握する。

・登場人物の生き方から、自身の生き方について考える。

4 : 〈古典〉 ・古人の言葉との出会いの中から、古人のものの考え方や見方を学ぶ。

・古人の創り出し語り伝えた言語文化を尊重することの意義について考える。

5 : 〈国語の特質〉

・ことばのしくみや役割を正しく理解し、読解や表現の学習に役立てられるようにする。

・漢字の学習を進めながら漢字や語句の理解を深め、より多くの語彙を獲得することを目指す。

6 年を通じた教科目標/養いたい力	
<p>○グローバル化が急速なスピードで進行している今日、国際社会の一員として、現代社会の課題を追究し、主体的に解決しようとする態度を養う。</p> <p>○現代社会の課題を自分の生活と結びつけて探究し、社会的事象を多面的・多角的にとらえ、自分の言葉で論理的・批判的に考察し、他者に伝え説明したり、議論したりする力を伸ばす。</p>	
3 学年【社会】の目標/伸ばしたい力	
<p>社会科の学習では、次のような「力」を培っていきたいと考えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新聞やテレビで報道される社会的なできごとに対して知的好奇心をいだく「力」 ○地図や統計資料、写真や映像資料等を読み解いていく「力」 ○社会的な事象に対する自分の考えを、論理的な文章でまとめていく「力」 ○学習した内容を、地図・新聞・レポートなどの形式で表現する「力」 ○SDGs（持続可能な開発目標）を意識して、社会的な事象をとらえていく「力」 <p>3 年次の社会科の学習では、これまで学習した地理的分野・歴史的分野の知識と関連付けながら、社会的な見方・考え方を学び、私たちが生きる「社会」について考えることを目指します。</p>	
MYP 評価規準	評価方法
規準 A：知識と理解	定期考査を中心に、授業中の学習活動から、歴史的・公民的分野の知識に関する理解度および活用の程度を評価します。
規準 B：調査探究	書籍・新聞記事・史料・統計資料・ネット上のデータ等を適切に取り取り、複数の情報を取捨選択し、自ら考察することができたかを評価します。
規準 C：コミュニケーション	授業中の質疑応答はもとより、課題に基づくディスカッション・ダイアログ・調査内容のプレゼンテーションにおいて、論点を整理してわかりやすく表現できたかを評価します。
規準 D：批判的思考	課題や定期考査で表明される意見・思考の深さを評価します。
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	
使用教材	
<p>（歴史分野）</p> <p>教科書：ともに学ぶ 人間の歴史（学び舎）</p> <p>副教材：つながる歴史 東京都版（浜島書店）</p> <p>（公民分野）</p> <p>教科書：中学社会 公民 ともに生きる（教育出版）</p>	
学習内容	
教科書・資料集の他、書籍・新聞記事・映像資料（映画・ドキュメンタリー・TV ニュース）、担当教員が作成した学習プリントを補助教材として使用します。	
<p>【歴史的分野】</p> <p>19 世紀以降の日本と世界の歴史</p> <p>【公民的分野】</p> <p>政治（人権・憲法・統治機構など）</p> <p>経済（企業・金融・財政など）</p> <p>国際（国際連合など）</p>	

6 年を通じた教科目標/養いたい力

国際社会でよりよく生きるために、物事に対する洞察力、自己と他者とを深く理解するためのコミュニケーション能力、確かで豊かな表現力を養うとともに、日本語に対する興味・関心を高める。6 年を通して、次のことを目標とし、学習を進めます。

国際社会の一員として、適切に判断し行動できる人間になるために、
 数学的リテラシーを育むとともに、数学に対する興味・関心を高め、豊かな感性を養う。

授業では、この目標を実現するために、また、数学教育の国際的な動向に目を向け、本校の独自テキスト『TGUISS 数学』を使用しながら、次のような活動を重視していきます。

- 実社会の問題を、数学の問題に直し、数学的に処理し、得られた解をもとの問題場面に照らして解釈する活動
- さまざまなアプリケーションを積極的に活用した探究活動
- 数学を使い、つくる活動

3 年次は、2 年次までに身につけた概念や方法をさらに高めます。また、これまでの学習内容と後期課程の数学を結びつける役割を担う学年と位置づけています。

なお、通常の教科書と『TGUISS 数学』との対応は、別表 1、別表 2 のとおりです。

3 学年【数学】の目標/伸ばしたい力

学習内容や数学的プロセスに基づき、継続的に以下の力の育成を図っていきます。

- 様々な文脈において、数学的に問題を解決する力
- 数学的に推論したり、数学的根拠に基づき意思決定したりする力
- 事象を描写したり説明したり予測したりするために数学を利用する力
- 数学が世界で果たす役割を見出す力

MYP 評価規準	評価方法
規準 A：知識と理解 規準 B：パターンの探究 規準 C：コミュニケーション 規準 D：実生活への数学の応用	<p>規準 A 数学の概念とスキル（技能）に関する理解について、筆記テストを中心に評価します。</p> <p>規準 B 様々な場面においてパターンを見出す力や、それを図や式等で表すことができる力、そのパターンの根拠やそれを用いて数学的な結論を導いたりする力を、授業中の活動やレポート、筆記テスト等を通して評価します。</p> <p>規準 C 場面や文脈に応じて、適切な数学の記号と言語を選択し、それらを用いて事実、概念、手法、結果、結論を伝える力を、授業中の活動やレポート、筆記テスト等を通して評価します。</p> <p>規準 D 数学が世界に対して果たす役割について理解を深めるとともに、社会問題や日常生活に数学を応用していく力とその結果を振り返る力を、授業中の活動やレポート、筆記テスト等を通して評価します。</p>

文部科学省 学習指導要領における観点別評価

文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います

知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	
------------------------------------	--

使用教材

教科書：新しい数学（東京書籍）
 副教材：TGUISS 数学 3（正進社）

学習内容

- ① 三平方の定理と三角比
 具体的な事象の中から、三平方の定理や三角比を創出し、それらについて理解するとともに、三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めるためにそれらを用いることができるようになります。
 （主な学習内容）平方根、立方根、展開公式、三平方の定理、三角比、正弦定理、余弦定理
- ② いろいろな関数とグラフ
 具体的な事象の中から、いろいろな変化のパターンを見だし、それを関数やそのグラフとして表すことができるようになるとともに、それらを用

いて事象を数学的に考察する力を伸ばします。さらに、関数のグラフそのものの特徴について考察し、理解を深めます。

(主な学習内容) x^n に比例・反比例する関数、展開公式、因数分解、2次関数、2次方程式

③ 数え上げ

もれなく、重複することなく数え上げる方法について理解し、それらを事象の考察に用いることができるようにします。また、集合の考え方をを用いて、より深い数学的推論ができるようにします。

(主な学習内容) 集合とその要素の個数、場合の数、順列、組合せ、二項定理

※授業進度や実態に応じて順番を入れ替えたり、内容を加えたりする可能性があります。

※詳細は、初回の授業で配布するガイダンス資料やカリキュラムマップを見てください。

別表 1

TGUISS数学科 カリキュラム対応表

学年	本校のカリキュラム	主な内容	学習指導要領	MYP数学
1	数の見方	整数	1年	○
		正の数・負の数	1年	○
	事象の見方	関数の考え	1年, 数学B	○
		文字式	1・2年	○
	図形の見方	一次方程式	1年	○
		空間図形	1年	○
		投影図	1年	
		平面図形(おうぎ形・図形の移動)	1年	○
		球の体積, 表面積	1年	○
	データの分析	データの収集	1年	○
データの分布と分析		1・2年	○	
2	一次関数と方程式	比例	1年	○
		一次関数	2年	○
		一次不等式	数学I	○
		連立方程式	2年	○
	平行と相似	平行四辺形	2年	○
		相似な図形	3年	○
	図形の論証	作図	1年	○
		三角形の合同条件	2年	○
		三角形の相似条件	3年	○
		三角形・四角形の性質	2年	○
	相関と回帰	円の性質	3年, 数学A	○
		相関	数学I	○
	3	三平方の定理と三角比	回帰の考え	なし
平方根			3年	○
三平方の定理			3年	○
いろいろな関数とグラフ		三角比	数学I	○
		反比例	1年	○
		$y=ax^2$	3年	○
		べき乗関数	数学II	○
		二次関数	数学I	○
		関数のグラフ	数学I・III	○[上級]
数え上げ		二次方程式	3年	○
		集合	数学I・A	○
		場合の数	数学A	○[発展]

別表 2

一般的な検定教科書		本校の独自テキスト	
学年	内容	学年	単元名
1	正の数・負の数	1	数の見方
1	文字と式	1	事象の見方
1	方程式	1	事象の見方
1	比例	2	一次関数と方程式
1	反比例	3	いろいろな関数とグラフ
1	平面図形	1	図形の見方
1	作図	2	平行と相似
1	空間図形	1	図形の見方
1	データの活用	1	データの分析
2	式の計算	1	事象の見方
2	連立方程式	2	一次関数と方程式
2	一次関数	2	一次関数と方程式
2	平行と合同	2	平行と相似
2	三角形と四角形	2	図形の論証
2	確率	4	確率
2	箱ひげ図	1	データの分析
3	平方根	3	三平方の定理と三角比
3	多項式	3	いろいろな関数とグラフ
3	二次方程式	3	いろいろな関数とグラフ
3	関数 $y=ax^2$	3	いろいろな関数とグラフ
3	相似な図形	2	平行と相似
3	円	2	図形の論証
3	三平方の定理	3	三平方の定理と三角比
3	標本調査	4	統計基礎

6 年を通じた教科目標/養いたい力	
<p>自然に対する関心を高め、「科学」が人間生活や環境にどのような作用をもたらすかについて、具体的に論じることができるようになる。また、実験データや様々な科学的情報を、適切な科学用語を用いて説明できるようになるとともに、その傾向やパターンについて論じることができるようになる。実験では、安全に留意して実験器具や装置を使用し、他者と協力して作業できるようになる。</p>	
3 学年【化学入門】の目標/伸ばしたい力	
<p>現代社会はその維持と発展のために科学技術との共生が不可欠であるという現状を踏まえて、化学的視点から社会に向き合う態度を育成する。具体的には、自然災害や公害、エネルギー問題、食品・日用品の安全性など、科学技術が過去・現在・未来の私たちの生活に深く関わっているという文脈の中で、以下に示す基礎的な概念や能力を身に付けていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人による実験デザインを可能にするための科学的知識および実験・観察スキルの定着。 ・ディスカッションやグループ実験を通して養うチームワーク力。 ・データ処理、シミュレーション、表現・発信のツールとして ICT 活用能力。 ・科学技術の可能性とその限界への理解と意識。 	
MYP 評価規準	評価方法
規準 A：知識と理解	探究活動・実験・観察の取り組み
規準 B：探究とデザイン	グループワークやプレゼンテーション
規準 C：手法と評価	実験ノート・レポート等の提出物
規準 D：科学による影響の振り返り	定期試験
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	
使用教材	
教科書：理科の世界（大日本図書）	
学習内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・化学変化と原子・分子 <ul style="list-style-type: none"> 物質の成り立ち いろいろな化学変化 化学変化と熱の出入り 化学変化と物質の質量 ・化学変化とイオン <ul style="list-style-type: none"> 水溶液とイオン 化学変化と電池 酸・アルカリとイオン ・地球の明るい未来のために <ul style="list-style-type: none"> 科学技術と人間 これからの私たちの暮らし 	

6 か年を通じた教科目標/養いたい力	
<p>自然に対する関心を高め、「科学」が人間生活や環境にどのような作用をもたらすかについて、具体的に論じることができるようになる。また、実験データや様々な科学的情報を、適切な科学用語を用いて説明できるようになるとともに、その傾向やパターンについて論じることができるようになる。実験では、安全に留意して実験器具や装置を使用し、他者と協力して作業できるようになる。</p>	
3 学年【地学入門】の目標/伸ばしたい力	
<p>1 学年では固体地球について学習してきたが、3 学年では大気という流体を中心に学習し、観察や観測を正確に実施できるようにするとともに、データを活用して数学的に処理をできるようにする。また、そこから自然界の仕組みを理解できるようにする。天気に関わる単元では、日々の生活に応用できることが大切で、天体に関する単元では、3 次元的な認識が大切となる。</p>	
MYP 評価規準	評価方法
規準 A：知識と理解 規準 B：探究とデザイン 規準 C：手法と評価 規準 D：科学による影響の振り返り	【A】テスト、レポートなど 【B、C、D】課題研究・観察の取り組みなど
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	
使用教材	
教科書：理科の世界（大日本図書）	
学習内容	
1 学期 気象に関する内容を学習します 2 学期 宇宙と天体に関する内容を学習します。 3 学期 自然と人間に関する内容を学習します。	

6 年を通じた教科目標/養いたい力	
<p>体育：国際社会の一員として心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上のための基礎・応用を学び、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。</p> <p>保健：個人生活における健康・安全に関する理解を通して、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。</p>	
3 学年【保健体育】の目標/伸ばしたい力	
<p>健康に関する基礎的な知識や概念を理解するとともに、学習内容を活用しようとする。</p> <p>運動の原則やルールについて考えることができる。</p> <p>一連の動きや技の構成などをスムーズに展開することができ、表現豊かに運動することができる。</p> <p>運動に対して必要な技術を習得し、それを利用して課題解決を図ることができる。</p> <p>個人やグループで、簡単な作戦や戦術を使って攻防したり、挑戦したりできる。</p> <p>他者との連携を図ろうと、協力したり責任感を持って取り組んだりするとともに、コミュニケーションをとることができる。</p> <p>学習カードの提出等、決められた約束を守ったり、協力して懸命に取り組んだりすることができる。</p>	
MYP 評価規準	評価方法
規準 A：知識と理解	期末テスト、課題やレポート等
規準 B：活動の計画	身体パフォーマンスと健康を改善するための計画の策定、計画書の記入
規準 C：応用と実践	運動技能の合理的な実践と応用能力
規準 D：活動の振り返りと改善	学習カードなどの記録の提出、取り組み等
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	
使用教材	
教科書：中学 保健体育（学研教育みらい）	
学習内容	
<p>体育</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 体づくり運動／スポーツテスト：4 月～5 月 ② 投運動（ベースボール型／ネット型）：5 月～6 月 ③ 水泳応用Ⅲ：6 月～7 月、9 月上旬まで ④ 球技Ⅳ（ゴール型）：9 月～12 月 ⑤ 武道Ⅰ／ダンスⅠ：1 月～3 月 ⑥ 体育理論Ⅲ（文化としてのスポーツ）：1 月～3 月 <p>保健</p> <p>健康な生活と病気の予防③・健康と環境：4 月～3 月</p>	
※公開研究会等の都合により、学習の順番が前後することがあります。	

6 年間を通じた教科目標/養いたい力	
IB 教育の充実を図りながら表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。教科横断的な視点を取り入れることで音楽文化についての理解をより深め、創造的な音楽性を培う。	
3 学年【音楽】の目標/伸ばしたい力	
1 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。 2 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現する能力を高める。 3 多様な音楽に対する理解を深め、幅広く主体的に鑑賞する能力を高める。	
MYP 評価規準	評価方法
規準 A：調査	(A) ワークシート・作品のリサーチ 主に授業中の学習内容を確認するプリントと、単元で扱っている主要な楽曲に対する調査（リサーチ）が評価の対象となります。ギター演奏の基礎的な奏法は規準 A で評価されます。
規準 B：発展	(B) Booklet（プロセスジャーナル）・ディスカッション 規準 B の作品などの、取り組み始めから完成までのプロセス、あるいは、具体的にどのような作品（ゴール）にしようかという議論の記述を評価します。アイデアのスケッチだけでなく、具体的な代案や変更案、またその理由などの記述も必要となります。
規準 C：創作・実演	(C) 歌唱テスト・編曲作品提出・器楽演奏 実技によるスキルの達成度の評価と、リズムを含む作曲作品の提出で評価します。また、グループアンサンブル時における演出も評価の対象となります。ギター演習の応用的な演奏は規準 C で評価されます（弾き語りなど）。
規準 D：評価	(D) グループワーク・相互評価 自らの作品や演奏に対して客観的な視点からの自己分析を評価します。 また、鑑賞作品の学習やディスカッションをふまえながら、単元の探究の問いに対してレポート形式で答えていきます。
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	
使用教材	
教科書：中学生の音楽（教育芸術社）	
学習内容	
<p><歌唱></p> <p>1、2、3 学期の活動を通して、混声 3 部合唱以上の響きへと相互の表現力を高めていきます。 詩の内容を深く理解し、声の強弱、緩急、発音、柔剛などさまざまな表現力を養っていきます。 ・ハーモニーの構造を知り、和音の響きの違い等を理解していきます。 ・ミュージカル曲やメディア音楽のアンサンブル活動を通じて、体現的な音楽表現の工夫、編曲をおこない、より高度な感性の深まりを目指します。</p> <p><鑑賞></p> <p>音楽を通じた表現に関する作品について鑑賞力を高めていきます。 音楽素材を十分に活用した近・現代の作品や、音楽史にかかわる鑑賞、また、互いの演奏を鑑賞することを通して鑑賞力を高めていきます。</p> <p><器楽></p> <p>ギターの歴史的推移を踏まえながら、その構造や音のなる仕組みなどを学習し、楽器を多角的な視点で分析します。また、ギター演奏の基礎を学び、弾き語りの難しさや面白さを味わいます。 和太鼓の基礎的な演奏方法を体験的に学習しながら、伝統について理解を深めていきます。リズムの応用単元として位置づけられ、グループで協同的に創作および演奏をする組太鼓の体験も行います。</p>	

6 年を通じた教科目標/養いたい力	
様々な表現活動や鑑賞活動を通じて、多様な文化を体験し、独創的な発想力や構想力を高め、柔軟な感性を持つ、国際社会に通用する人間を育成する。	
3 学年【美術】の目標/伸ばしたい力	
美術科では6年間で3段階に分け、基礎美術、発展美術、創造美術と位置づけます。3つの段階を学習することにより、基礎から応用まで無理なく楽しみながら学習活動ができるようにします。なお、後期課程からは芸術科は選択科目になります。 美術教室の中での活動だけでなく、学校図書館や美術館等の施設を積極的に活用し、美術に対する関心・意欲や鑑賞力・創造力を高めていきます。 3年生は基礎的な学習をもとに発展的な学習をする時期と捉え、授業を展開していきます。	
MYP 評価規準	評価方法
規準 A：調査	The arts process journal (APJ)、レポート
規準 B：発展	APJ、レポート、ディスカッション
規準 C：創作・実演	表現活動、作品
規準 D：評価	APJ、レポート、鑑賞活動
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める3つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	
使用教材	
教科書：美術（開隆堂）	
学習内容	
1 学期 4～7月 絵画 鉛筆デッサンと様々な技法を組み合わせた作品を制作します。 様々な表現技法を組み合わせて表現します。 (主な学習内容・活動内容) 鉛筆による人物デッサン、様々な技法、鑑賞	
2 学期 9～12月 鑑賞 自分達の作品を工夫して展示し、発表し、鑑賞します。 工芸 前期課程修了の記念となるような作品を制作します。 (主な学習内容・活動内容) 素材の加工と仕上げ、工芸、レリーフ、鑑賞	
3 学期 1～3月 デザイン イメージやメッセージを効果的に表現し発信する事を学びます。 (主な学習内容・活動内容) デザインとコミュニケーション、作品の批評、鑑賞	
* 行事等授業時数の関係で内容が多少変更することがあります。	

6 年を通じた教科目標/養いたい力

習熟度に相応するレベルでの英語による言語活動を通して、言語能力全般の伸長をめざします。生活言語能力にとどまらず、抽象的な概念操作が可能な学習言語能力の獲得が目標です。

3 学年【英語 Core】の目標/伸ばしたい力

3 年次は、いままで身につけた基礎の更なる伸長をはかり、応用する力を伸ばします。

語彙、文法を基礎として、話す・聞く・読む・書く力を総合的に訓練します。聞く・読む活動から、情報を得て、まとめ、分析して話す・書く力を育成します。また、英語圏文化の理解を深め、異文化を理解しようとする態度や関心を育成します

At the end of phase 3 (Capable Level), students should be able to do the following in simple and some complex authentic texts:

Criterion A: Listening

- i. identify explicit and implicit information (facts and/or opinions, and supporting details)
- ii. analyse conventions
- iii. analyse connections

Criterion B: Reading

- i. identify explicit and implicit information (facts and/or opinions, and supporting details)
- ii. analyse conventions
- iii. analyse connections

Criterion C: Speaking

- i. use a wide range of vocabulary
- ii. use a wide range of grammatical structures generally accurately
- iii. use clear pronunciation and intonation in comprehensible manner
- iv. during interaction, communicate all or almost all of the required information clearly and effectively

Criterion D: Writing

- i. use a wide range of vocabulary
- ii. use a wide range of grammatical structures generally accurately
- iii. organize information effectively and coherently in an appropriate format using a wide range of simple and complex cohesive devices
- iv. communicate all or almost all the required information with a clear sense of audience and purpose to suit the context

MYP 評価規準	評価方法
Phase 3	
規準 A : リスニング	テスト
規準 B : リーディング	テスト
規準 C : スピーキング	スピーチ、プレゼン、ディスカッション、インタビュー
規準 D : ライティング	作文、文法問題、エッセイ、テスト

文部科学省 学習指導要領における観点別評価

文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います

知識・技能	規準 A (Listening)・ 規準 B (Reading)・規準 C (Speaking)・規準 D (Writing)
思考・判断・表現	規準 A (Listening)・ 規準 B (Reading)・規準 C (Speaking)・規準 D (Writing)
主体的に学習に取り組む態度	Effort (日頃の授業の取り組みや課題・振り返り等総合的に評価)

使用教材

教科書 : NEW HORIZON English Course (東京書籍)

学習内容

教科書の学習内容を踏まえて、英語を使って自分の意見を根拠とともに発信する学習を中心に行います。さらに語彙や表現の幅を広げます。様々な活動を通して英語力の定着をはかります。

言語、障がい者スポーツ、食品ロス、環境保護、日本の文化、偉人、防災、平和問題、国際協力など

6 年を通じた教科目標/養いたい力

習熟度に相応するレベルでの英語による言語活動を通して、言語能力全般の伸長をめざします。生活言語能力にとどまらず、抽象的な概念操作が可能な学習言語能力の獲得が目標です。

3 学年【英語 Advanced】の目標/伸ばしたい力

3 年次は、上記の目標を実現するための基礎となる力を維持していく学年と位置づけています。

これまで英語のみならず他教科で蓄積してきた知識を動員しながら、また物事を論理的に検証し、分析するために探究活動を通して、英語で今日的な話題について考えていきます。

At the end of phase 4 (Capable Level), students should be able to do the following in simple and some complex authentic texts:

Criterion A: Listening

- i. identify explicit and implicit information (facts and/or opinions, and supporting details)
- ii. analyse conventions
- iii. analyse connections

Criterion B: Reading

- i. identify explicit and implicit information (facts and/or opinions, and supporting details)
- ii. analyse conventions
- iii. analyse connections

Criterion C: Speaking

- i. use a wide range of vocabulary
- ii. use a wide range of grammatical structures generally accurately
- iii. use clear pronunciation and intonation in comprehensible manner
- iv. during interaction, communicate all or almost all of the required information clearly and effectively

Criterion D: Writing

- i. use a wide range of vocabulary
- ii. use a wide range of grammatical structures generally accurately
- iii. organize information effectively and coherently in an appropriate format using a wide range of simple and complex cohesive devices
- iv. communicate all or almost all the required information with a clear sense of audience and purpose to suit the context

MYP 評価規準	評価方法
Phase 4	
規準 A : リスニング	テスト
規準 B : リーディング	テスト
規準 C : スピーキング	スピーチ、プレゼン、ディスカッション、インタビュー
規準 D : ライティング	作文、文法問題、エッセイ、テスト

文部科学省 学習指導要領における観点別評価

文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います

知識・技能	規準 A (Listening)・ 規準 B (Reading)・規準 C (Speaking)・規準 D (Writing)
思考・判断・表現	規準 A (Listening)・ 規準 B (Reading)・規準 C (Speaking)・規準 D (Writing)
主体的に学習に取り組む態度	Effort (日頃の授業の取り組みや課題・振り返り等総合的に評価)

使用教材

教科書 : NEW HORIZON English Course (東京書籍)

学習内容

新聞、インターネット、文学など多様な題材を用いて、英語を使いながらあらゆるテーマについて学ぶ力と態度を伸ばします。

3 年を通じた教科目標/養いたい力	
技術によって解決できる問題に対応したソリューション開発を通して、実践的なスキルや創造的かつ批判的思考を行うための方策を身に付けます。また、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養います。	
3 学年【技術】の目標/伸ばしたい力	
3 学年は、2 学年よりも、さらに高度なソリューション開発を行います。社会における問題からグローバルな問題に視点を変え、SDGs の観点で問題解決に取り組みます。	
<p>規準 A 探究と分析 (Inquiring and analysing)</p> <ul style="list-style-type: none"> i. ソリューションの提供の必要性を説明し、正当化する。 ii. ソリューション開発のために必要とされる一次および二次資料によるリサーチを特定し、優先順位をつけ、それを述べたりリサーチ計画を作成する。 iii. ソリューション開発のヒントを得るため、幅広く既存の製品を分析する。 iv. 先行研究を分析し、それについて述べながら、デザインブリーフを作成する。 <p>規準 B アイデアの発展 (Developing ideas)</p> <ul style="list-style-type: none"> i. 収集したデータに基づき、ソリューションのデザインに関する成功規準を簡単に述べた設計仕様書を作成する。 ii. 他者が正しく解釈できる、実現可能な幅広いデザイン案を提示する。 iii. 選択したデザインを提示し、そのデザインを選択した理由を簡単に述べる。 iv. 正確なスケッチや図案を作成し、選択したソリューションの製作に対する要件を簡単に述べる。 <p>規準 C 課題解決 (Creating the solution)</p> <ul style="list-style-type: none"> i. 論理的に筋の通った計画を立てる。その計画は時間やリソースを無駄なく使う方法が簡単に述べられており、他の生徒もそれを見てソリューションの製作ができるものになっている。 ii. ソリューションの製作にあたり、優れた技術的スキルを示す。 iii. 計画に従い、意図した通りの機能を実現するようソリューションを製作する。 iv. ソリューションの製作にあたり、選ばれたデザインや計画に対して変更を加えた場合には、その理由を説明する。 <p>規準 D 評価 (Evaluating)</p> <ul style="list-style-type: none"> i. ソリューションの効果を測定するための正確なデータを生成する、詳細かつ適切なテスト方法について詳しく述べる。 ii. 効果の測定結果を設計仕様書と付き合わせて、ソリューションの効果を説明する。 iii. ソリューションをどのように改善できるかを詳しく述べる。 iv. ソリューションが顧客やターゲット層に及ぼす影響を詳しく述べる。 	
MYP 評価規準	評価方法
規準 A : 探究と分析 (Inquiring and analysing)	レポート、定期テスト
規準 B : アイデアの発展 (Developing ideas)	レポート、定期テスト
規準 C : 課題解決 (Creating the solution)	レポート、ソリューション、定期テスト
規準 D : 評価 (Evaluating)	レポート、定期テスト
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能	生活や社会で利用されている技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解している。
思考・判断・表現	生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、技術を工夫し創造しようとしている。
使用教材	
教科書：新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology (東京書籍)	
学習内容	
<p>自動化システムの開発・提案による問題の解決 (情報の技術)</p> <p>ブロック型教材やシングルボードコンピュータを使用して自動化システムを開発・提案し、グローバルな問題を解決していきます。</p> <p>野菜の栽培 (生物育成の技術)</p>	

食糧生産技術の現代的課題を見据え、栽培計画や環境設定を自分たちでデザインし、生育結果を比較分析します。

6 年を通じた教科目標/養いたい力	
<p>実践的・体験的な活動を通して、生活の自立に必要な衣食住に関する基礎的な知識と技術を習得する。また、家庭の機能について理解を深め、生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。</p>	
3 学年【家庭】の目標/伸ばしたい力	
<p>3 年次：衣服に関する文化や衣服の選択と手入れなど、持続発展可能な社会を考えた衣生活に関して学び、被服製作を通してデザインサイクルを実践する。衣服の流通の仕組みや環境・機能、そして、様々な生活に関わることについて理解を深め、課題をもって生活をより良くしようとする能力と態度を育てる。</p>	
<p>規準 A 探究と分析</p> <ul style="list-style-type: none"> i. 衣生活に関わる課題を発見し、その必要性を誰もがわかるように説明できる ii. 衣生活の課題から、衣生活を向上させるのに必要な方法を、優先順位を立てて複数示すことができる iii. 衣生活の課題を解決するための方策を、系統立てて解析できる iv. 衣生活の概要（デザインブリーフ）を発展させた関連調査の解析ができる 	
<p>規準 B アイデアの発展</p> <ul style="list-style-type: none"> i. 衣生活の課題解決のために、調べた内容から、衣生活がより正しく行われるための計画書を作成できる ii. 実現可能な衣生活の計画を、他者から正しく理解されるように示すことができる iii. 計画の作成理由と要点をまとめることができる iv. 計画が正確に理解できるように構造的に図解し、必要なものを要約できる 	
<p>規準 C 課題解決</p> <ul style="list-style-type: none"> i. 論理的な計画を作成し、資源や時間の効果的な使用について要点をまとめ、衣生活の課題解決ができる ii. 衣生活の課題解決上の優れた技術を示すことができる iii. 生活の課題解決計画に従って、その解決方法を選んだ理由や計画の変更点を説明できる iv. 衣生活の課題解決策を発表できる 	
<p>規準 D 評価</p> <ul style="list-style-type: none"> i. 衣生活の課題解決の成果を判断するための詳細なテスト方法を記述し、データを示すことができる ii. 上記の課題解決方法とは別に、衣生活の課題解決の成果を説明できる iii. 衣生活の課題解決をどのように改善したか記述できる iv. 衣生活の課題解決が生活にあたる影響を記述できる 	
MYP 評価規準	評価方法
<p>規準 A：探究と分析 規準 B：アイデアの発展 規準 C：課題解決 規準 D：評価</p>	<p>A～D について ワークシート、小テスト、定期テスト 製作物、各課題の提出状況、授業の様子など</p>
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
<p>文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います</p>	
<p>知識・技能</p>	<p>家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解し、それらに係る技能を身に付けている。</p>
<p>思考・判断・表現</p>	<p>家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を身に付けている。</p>
<p>主体的に学習に取り組む態度</p>	<p>自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとしている。</p>
使用教材	
<p>教科書：技術・家庭【家庭分野】（開隆堂）</p>	
学習内容	
<p>(1) 衣服の選択と手入れ（衣服と社会生活の関わり・衣服の計画的な活用と選択・衣服の材料と手入れ） (2) 衣生活の工夫（布を用いた製作・衣服に関する課題解決の実践）</p>	

国際教養・1～6 学年【国際1～6】

6 年を通じた教科目標/養いたい力	
<p>1. 課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けて、多様な文化・社会の在り方やそこで生きる人々及び様々な現象について理解を深める。また、課題解決のための方法について知る。</p> <p>2. 国際理解・人間理解・理数探究に関わる現代的な諸課題から問いを見だし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査のために様々な方法を実践したり、得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことについて根拠を明らかにしてまとめ、表現し、異なる文化・背景を持つ他者と共有してディスカッションする力を身に付ける。</p> <p>3. 国際理解・人間理解・理数探究に関わる現代的な諸課題の解決に主体的・協働的に取り組むとともに、多様な文化・背景を持つ他者と互いのよさを生かしながら、自ら社会に参画しようとする態度を育てる。</p> <p>ここで国際理解・人間理解・理数探究とは、現代的な諸課題を見る 3 つの視点である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 国際理解…自国の文化・他国の文化を含めて、多様な文化・社会の在り方について理解を深める。 ○ 人間理解…社会を支える一員として、学校・地域・国・世界に生きる人々の生き方や社会の在り方について考え、思いやりの心を身につける。 ○ 理数探究…身の回りや世の中の様々な事象を科学的視点から捉え、社会に活用していく方法について考える。 	
各学年【国際】の目標/伸ばしたい力	
<p>〈1 年〉様々な事柄の「つながり」を意識して学習する。異なる文化・環境に生きる人々に関心を持ち、それらに対する耐性を養う。</p> <p>〈2 年〉様々な人が生きている社会と自分との関わりを客観的にとらえ、他者との適切なコミュニケーションの方法を身につける。</p> <p>〈3 年〉様々な現代社会の課題について情報を集め、自分たちとその課題の関わりについて考え、異なる文化・背景を持つ他者とも情報や意見を共有する。</p> <p>〈4 年〉自分なりの視点で現代社会の課題を見つけ、調査・探究し、現実の社会に自らアプローチする。</p> <p>〈5 年〉異なる文化・環境を持つ他者と課題を共有し、英語でディスカッションすることができる力を身につける。</p> <p>〈6 年〉社会にとって意義ある問いを立て、それに対して何らかのアクションを起こすことを目指す。また、母語でも外国語でも、異なる文化・背景を持つ他者と自分たちの社会の課題について対話し、相互協力体制を築けるような姿勢・力を身につける。</p>	
MYP/ISS 評価規準	評価方法
総合的な学習/探究の時間は MYP の課程内ではありませんので、該当する内容はありません。	各学年の国際教養の時間、国際教養群に入っている各教科の科目によって多様な評価が行われます。
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	各学年で開設されている「国際○」の時間は、学習指導要領では「総合的な学習の時間」（前期課程）、「総合的な探究の時間」に対応します。総合的な学習/探究の時間では、数値による評価・評定は行われず、記述による評価がなされます。 国際教養群に含まれる各教科の科目に関しては、前期・後期とも各科目で観点を設け、数値による評価・評定を行っています。
学習内容	
<p>1 年 「国際 1」、「Learning in English 1」</p> <p>2 年 「国際 2」、「Learning in English 2」</p> <p>3 年 「国際 3」、「Pre Immersion」、「Learning in English 3」</p> <p>4 年 「MYP Personal Project/課題研究」、「Global Issues」、「英語以外の言語」</p> <p>5 年 「総合的な探究の時間」「Global Issues」「英語以外の言語」</p> <p>6 年 「総合的な探究の時間」「国際 A」「国際 B」</p> <p>上記の科目・総合的な学習の時間の他に、1・3・5 年のワークキャンプ I・II（国内）・III（海外）・各学年や教科で実施されるフィールドワークも学習内容に含まれます。また、1 年から 3 年では、4 年次において PP を完成させるためのスキルを身に付ける学習活動を行います。さらに、5・6 年の「総合的な探究の時間」では、学年の枠を越えた形態で探究活動を行います。</p>	

国際教養群・3 学年【Learning in English (LE)】

6 年を通じた教科目標/養いたい力	
言語学習だけが目的ではなく、英語で身近なところから世界規模の様々な問題を扱い、知識を蓄え、問題を発見、分析、解決していく力を育みます。	
3 学年[LE]の目標/伸ばしたい力	
3 年次は、上記の目標を実現するための英語でのアウトプットを可能にする力も身につける学年と位置づけています。まとまった時間を英語のみ学習することで、引き続き英語に浸る(immerse)練習をしていきます。英語学習経験のある生徒に対しても、引き続き英語で教科的な内容を操作する経験を提供します。 4 年次から本格的に始まるイメージング授業の準備をします。	
ISS 評価規準	評価方法
規準 A : スピーキング	インタビュー、スピーチ、プレゼン、ディスカッション
規準 B : ライティング	作品、テスト
使用教材	
(Core) Reading Adventures 3 (センテージ ラーニング)	
(Advanced) Inside Writing 3 (オックスフォード大学出版局)	
学習内容	
(Core) 英語を通して、世界中の様々な時代における興味深い話題を集めた教材をもとに、語彙を増やし、読解力を高め、プレゼンテーション能力やディスカッションの力を身につけていきます。	
(Advanced) 英語を使いながらあらゆるテーマについて学ぶ力と態度を伸ばします。 社会科、数学科、理科、芸術科など他教科からのアプローチを特に意識し、様々な問題について議論します。	